

縦横無尽のフットワーク、粘り強いプレーを見てほしい



写真提供：日本ユニシス



リオデジャネイロオリンピック バドミントン女子日本代表 奥原希望さん (日本ユニシス)



photograph：遠藤直次

今年3月、イギリスのバーミンガムで行われた全英オープンでは、準決勝で世界ランキング1位の選手、決勝で同5位の選手を破って優勝することができました。相手のスマッシュを粘り強く拾って、長いラリーの末に、相手が根負けするまで動き回るのが私のプレースタイル。トップ選手が集まる試合で競り勝てたのは、オリンピックへ向けて自信につながると思います。

スピード感と駆け引きが魅力

バドミントン競技を始めたのは、高校教師だった父がバドミントン部の顧問を

していたこと、やはりバドミントン選手だった姉と兄の影響です。気がつく前は、コート隔ってシャトルとひとり遊びをしていました(笑)。

バドミントンの試合は21点の3ゲーム制で、20対20になった場合は延長となり、2点差をつけるか、30点を先に取ったら勝ち。2ゲーム先取したほうが勝者です。競技の魅力のひとつはスピード感。スマッシュの初速は時速3000キロ以上、男子のトップ選手だと5000キロ近く出るという、どの競技にもない迫力があります。それと、ラリー中の駆け引きが面白く、相手にわざとショットを打たせながら、自分の得意なショットをいつ出すか、常に相手先を考えてプレーしています。

一球一球に集中、必ずメダル狙う

ラリーの応酬が続く試合は、各ゲーム



Profile ●おくはら・のぞみ

1995年、長野県大町市出身。7歳でバドミントンを始め、小学校時代から全国大会で活躍。単身で埼玉県立大宮東高校へ進学し、全日本総合女子シングルスで史上最年少(16歳8ヶ月)で制覇。2013年に高校卒業後、日本ユニシス入社。15年、世界最高峰のBWFスーパーシリーズファイナルズでは同種目で日本勢として初優勝。16年3月の全英オープンでも世界の強豪を破り優勝。リオデジャネイロオリンピックへの出場を決めた。156cm、52kg。

今とはとにかく目の前の一球一球に集中し、皆さんの期待に応えて、オリンピックのメダルを持ち帰れるように頑張りたいと思います。

(平成28年6月20日に取材しました)

日常生活で気をつけているのは、食事の内容。海外遠征が多いので、日本にいるときは生野菜をできるだけ食べて、積極的にビタミン摂取に努めています。母は栄養士でもあり、小さいころから体にいい食事について教えてもらっていました。

一方が11点になったとき1分以内、ゲーム間に2分以内の休憩があるだけで、2時間近くかかる体力勝負でもあります。ふだんから6時間近い練習をしてスタミナをつける一方、試合中にはできるだけ消耗しないようなゲームコントロールも大切